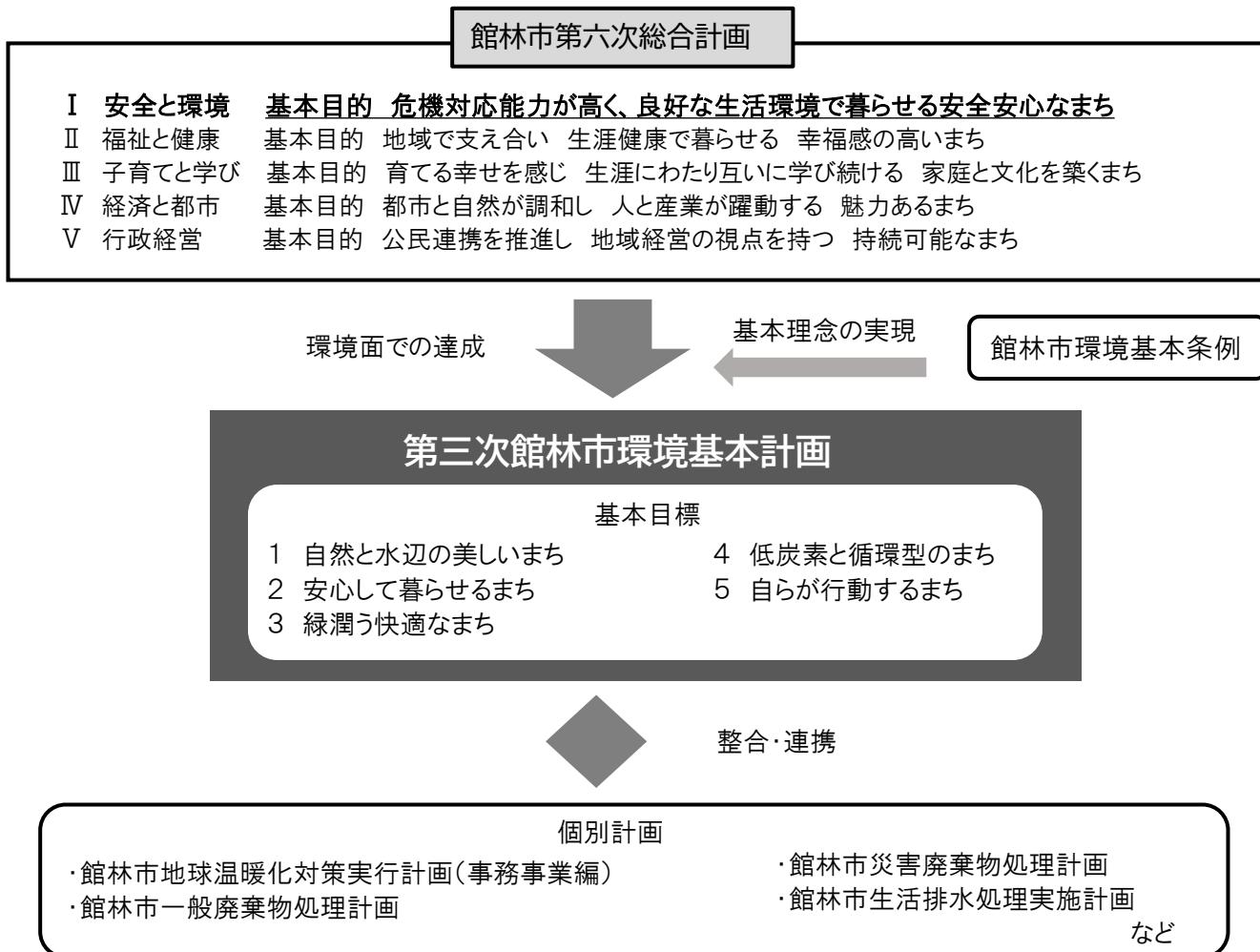


第三次館林市環境基本計画

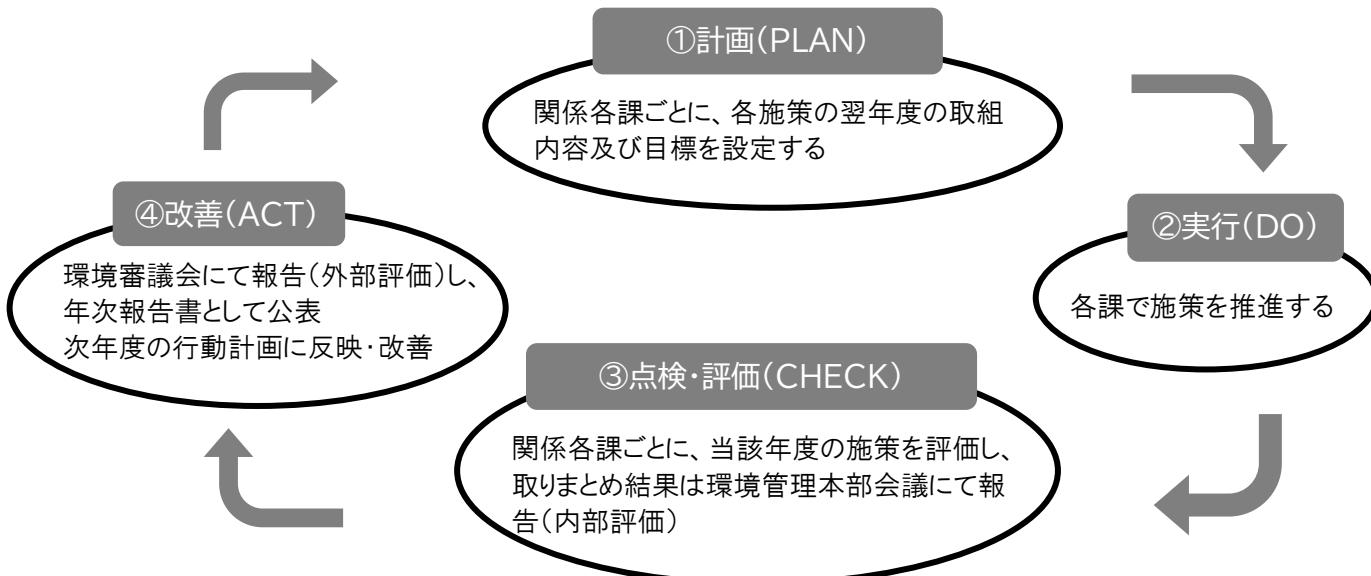
～令和6年度結果報告書～

1. 第三次館林市環境基本計画の位置づけ



2. 進行管理について

計画の進行管理は、環境マネジメントシステム (EMS) のPDCAサイクルの考え方に基づいています。



3. 基本目標及び行動目標の評価

基本目標1～5の評価は以下の通りです。

【○：中間目標値・目標値達成 ▲：改善されているが目標未達成 ×：現状値より悪化】

〈基本目標1 自然と水辺の美しいまち〉

項目	環境指標	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和11年度)	実績		目標達成度
				R6	R5	
①みどり	鳥獣保護区の面積 特別緑地保全地区の面積	鳥獣保護区:773.2ha 特別緑地保全地区:12.0ha	現状維持	維持	○	○
②水辺	湿原面積	茂林寺沼湿原:5.6ha 蛇沼湿原:1.1ha 入ノ谷湿原(高根町):2.1ha	現状維持	維持	○	○
③水資源	観測井2か所の 地下水位(※1) ・2号井150m/上早川田町 ・3号井80m/上早川田町	2号井:16.43m 3号井:4.10m (令和4年度)	現状維持	2号井:16.43m 3号井:4.10m (令和5年度)	○	○
④生きもの	メダカの生息 確認の有無	生息	生息	生息	○	○
⑤ふれあい	自然観察会の 参加人数	1,753人 (令和4年度)	3,100人	1,439人	×	×

※1水位は地表面より下の水位を示している

〈基本目標1〉 5項目中4項目達成しています。自然環境の保全維持に関してはおおむね良好ですが、自然観察会に関しては事業縮小等に伴い参加人数が減少しているため、イベントの見直しや周知啓発の強化に取り組む必要があります。

〈基本目標2 安心して暮らせるまち〉

項目	環境指標	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和11年度)	実績		目標達成度
				R6	R5	
⑥空気	大気汚染物質(※1)の 長期的評価による 環境基準達成率 (除く光化学オキシダント)	100% (令和4年度)	100%	100% (令和5年度)	○	○
	光化学オキシダントの短期的 評価(※2)による環境基準の 達成状況	未達成 (令和4年度)	達成	120日超過 (令和5年度)	×	×
⑦水	鶴生田川五号橋の 水質(BOD)(※3)	4.1mg/l	5.0mg/l以下	3.7mg/l	○	○
	城沼中央部の水質(BOD) (※3)	9.6mg/l	5.0mg/l以下	6.9mg/l	×	△
⑧騒音・ 振動	観測地点での騒音の 環境基準の達成率	昼間:100% 夜間:100%	昼間:100% 夜間:100%	昼間:100% 夜間:100%	○	○
⑨悪臭	悪臭の苦情件数	3件	1件	1件	×	○

⑩地盤・土壤	水準測定点25地点の5年間の平均地盤沈下量	3.4mm (令和4年度)	6.0mm	2.2mm (令和5年度)	○	○
--------	-----------------------	------------------	-------	------------------	---	---

※1大気汚染物質は一般大気及び自動車排出ガスの測定局による測定結果を示す

※2環境基準(1時間値が0.06ppm以下)を1回以上超えると未達成

※3水質の値は「75%値」を参照

〈基本目標2〉 7項目中5項目達成しています。光化学オキシダントの環境基準値が超える原因の一部には、交通量の多さや気象条件等がありますが、大気中を浮遊するため広域的な問題です。主な原因である排気ガスを減らすために、次世代自動車の普及や公共交通機関の利用を促進する必要があります。

〈基本目標3 緑潤う快適なまち〉

項目	環境指標	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和11年度)	実績		目標達成度
				R6	R5	
⑪公園	市民1人当たりの公園・緑地等面積	28.23m ² (令和4年度)	現状維持	28.9m ²	○	○
⑫景観	町並みが美しいと思う市民の割合	74.4%	80%	80.3%※1 (令和7年度)	×	○
⑬緑	庭の緑化に取り組んでいる市民の割合	69.2%	80%	72.5%※2 (令和7年度)	×	△

※1市民・事業者アンケート調査結果「町並みの美しさについて」より算出

※2市民・事業者アンケート調査結果「庭の緑化について」より算出

〈基本目標3〉 3項目中2項目達成しています。町並みが美しいと思う市民の割合は目標値を達成しているものの、庭の緑化に取り組んでいる市民の割合はまだ目標値に届かないため、グリーンバンク等の利活用を周知する啓発手段を検討していく必要があります。

〈基本目標4 低炭素と循環型のまち〉

『たてばやし5つのゼロ宣言－宣言2 温室効果ガス排出量ゼロ－』に関連しています。

項目	環境指標	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和11年度)	実績		目標達成度
				R6	R5	
⑭再エネ	再生可能エネルギー導入設備容量	51,799KW (令和4年度)	76,827KW	52,744KW (令和5年度)	×	△
⑮省エネ	市民の省エネルギー実施率	38.8%	50%	50.8%※2 (令和7年度)	×	○
⑯循環型社会	市民1人1日当たりのごみ排出量	930g (令和4年度)	843g	912g (令和5年度)	△	△
	ごみの資源化率	18.6% (令和4年度)	24.2%	18.3% (令和5年度)	×	×
⑰温暖化	市域からの二酸化炭素排出量	473千t-CO ₂ (令和2年度)	335千t-CO ₂	484千t-CO ₂ (令和4年度)	×	×
⑱公共交通	拠点間を結ぶバスの利用者数	170,264人 (令和4年度)	現状維持	179,445人	○	○
⑲気候変動	人口1万人当たりの熱中症による救急搬送者数	10人	減少	9.5人	○	○

※1市民・事業者アンケート調査結果「地球温暖化防止につながる設備の導入」より算出

※2市民・事業者アンケート調査結果「省エネルギー行動について」より算出

〈基本目標4〉 7項目中3項目達成しています。ごみの資源化や二酸化炭素の排出を抑えるために、公式LINEでごみ収集日のリマインダー機能や分別チャットボットを活用し、省エネルギー行動の啓発を進めるのと同時に、再生可能エネルギー設備の導入を検討をしていく必要があります。

〈基本目標5 自らが行動するまち〉

項目	環境指標	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和11年度)	実績		目標達成度
				R6	R5	
⑩環境啓発	環境啓発事業への参加人数	1,064人	2,800人	1,140人	×	△
⑪環境学習	出前講座の年間実施件数及び参加人数	26件・1,205人	30件 1,800人	32件・1,248人	△	△
⑫環境活動	環境に係わる活動への参加率	18.0%	35.0%	19.0%※ (令和7年度)	△	△

※市民・事業者アンケート調査結果「環境に係わる活動について」より算出

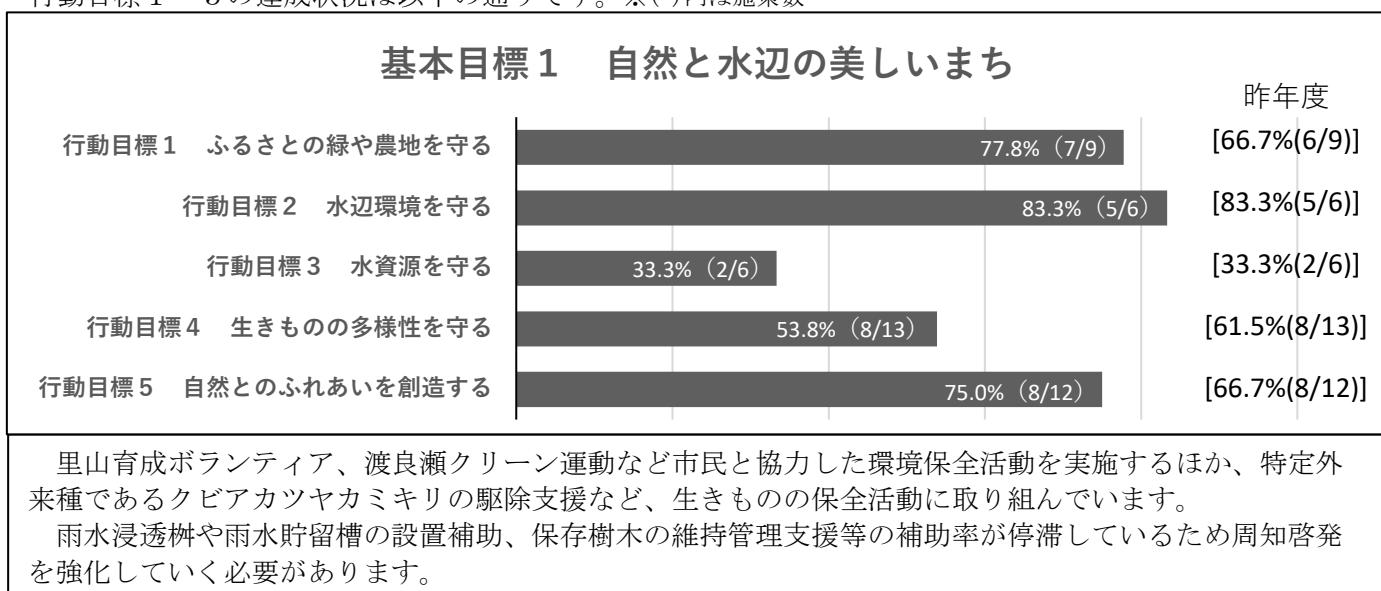
〈基本目標5〉 環境に係わる事業への参加率や出前講座の実施件数など、すべての項目において増加傾向にはありますが、目標値までの伸び率が停滞している状況です。既存の環境啓発事業の周知の徹底や新規イベントの検討、環境教育の機会を増やしていく必要があります。

4. 関係各課における行政施策の評価

※[]内は昨年度実績値

基本目標1 自然と水辺の美しいまち 【達成率:65.2%】

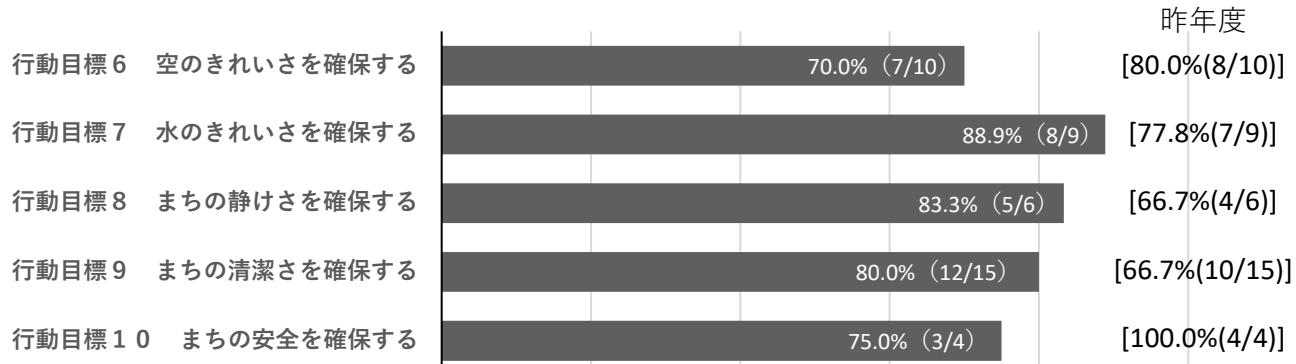
行動目標1～5の達成状況は以下の通りです。※()内は施策数



基本目標2 安心して暮らせるまち 【達成率:79.5%】

行動目標 6～10 の達成状況は以下の通りです。※()内は施策数

基本目標2 安心して暮らせるまち



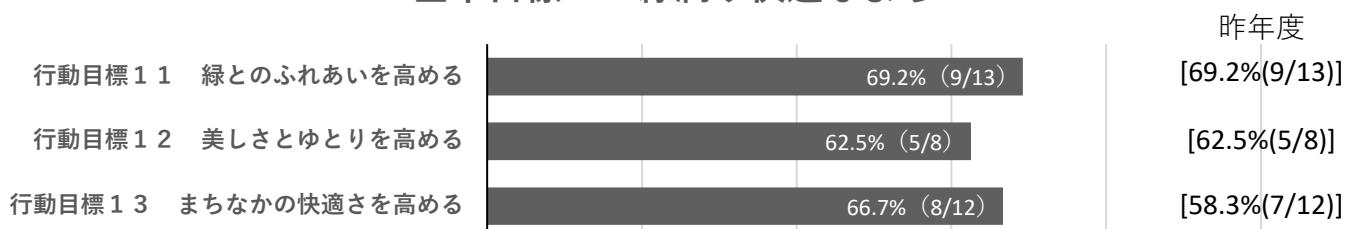
廃棄物の適正な収集処理のため展開検査を実施し、許可業者に対する指導を行うことで適正処理の徹底を図っています。また、不法投棄監視パトロールや分別指導、カラス対策などのごみステーションの管理支援を実施し、まちの清潔さの確保をサポートしました。

空き家や耕作放棄地等の適正管理要請を引き続き実施し、苦情件数の削減を図っていく必要があります。

基本目標3 緑潤う快適なまち 【達成率:66.7%】

行動目標 11～13 の達成状況は以下の通りです。※()内は施策数

基本目標3 緑潤う快適なまち

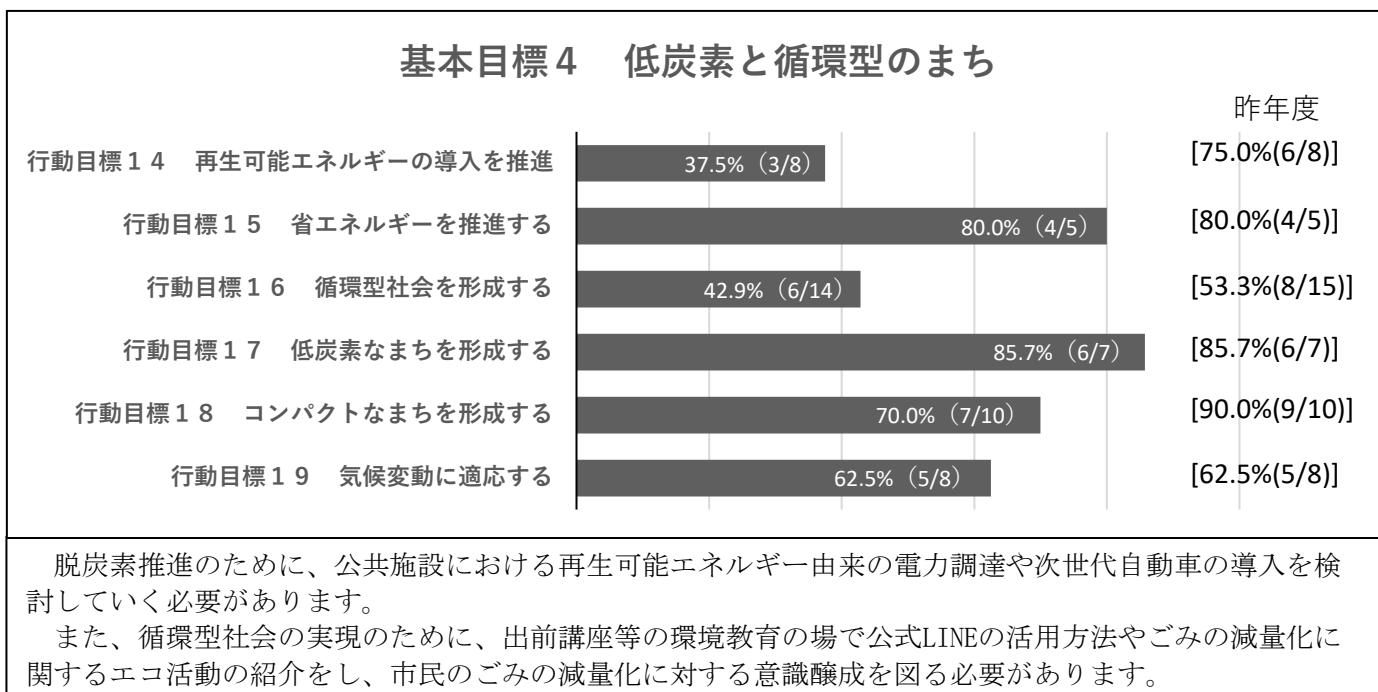


市民が緑に親しめるグリーンバンクの利用を促進し、市民に樹木等を交付及び寄付をしていただくことで緑化の推進を図りました。また、緑のカーテンの設置や学校、公園などの公共施設の樹木等の適正管理を行うことでまちなかの緑化を推進しています。

緑化活動の推進をするため、「花緑ふやし隊」などのボランティア団体等を周知啓発し、市民参加型の啓発運動を強化していく必要があります。

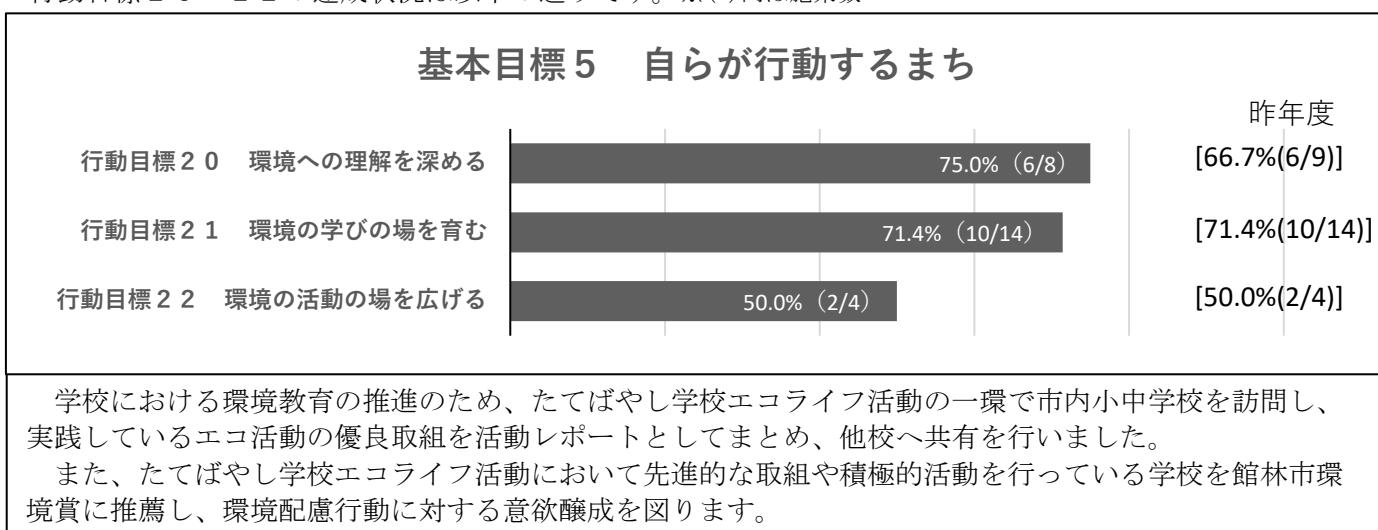
基本目標4 低炭素と循環型のまち 【達成率:59.6%】

行動目標14～19の達成状況は以下の通りです。※()内は施策数



基本目標5 自らが行動するまち 【達成率:69.2%】

行動目標20～22の達成状況は以下の通りです。※()内は施策数



市民・事業者アンケート調査結果

1. 調査結果概要 ※()内は昨年度実績値

第三次館林市環境基本計画の進行管理にあたり、市民・事業者の環境への取組状況を把握し、環境行政に反映させるために、アンケート調査を実施しました。

調査対象	市民	事業者
調査期間	令和7年5月6日～令和7年6月13日	
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出	館林商工会議所所有データより業種ごとに無作為抽出
調査数	400 (400)	80 (80)
回収数	178 (167)	40 (48)
回収率	44.5% (41.8%)	50.0% (60.0%)
	45.4% (44.8%)	

2. 市民アンケート調査結果

※小数点以下を四捨五入しているため、必ずしも合計が100%にはならない。

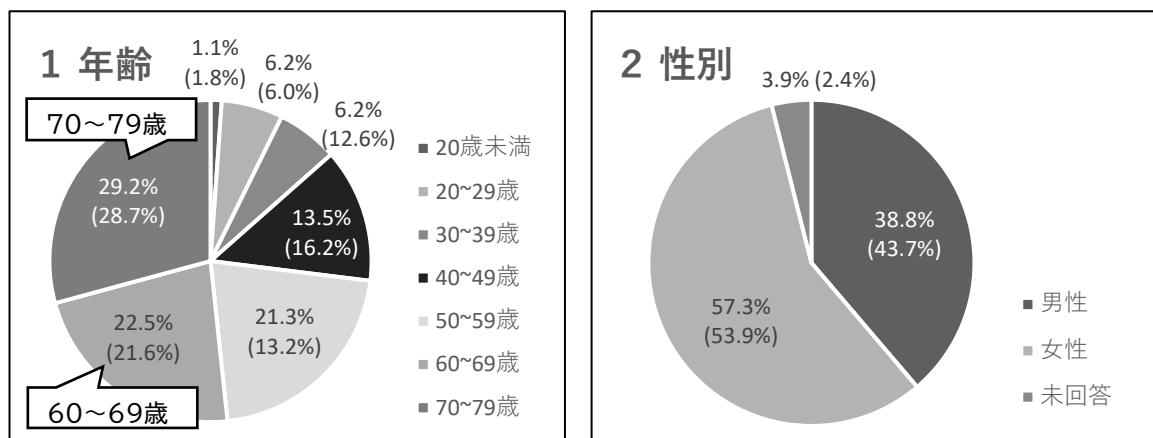
※()内は昨年度実績値

(1) 基本情報

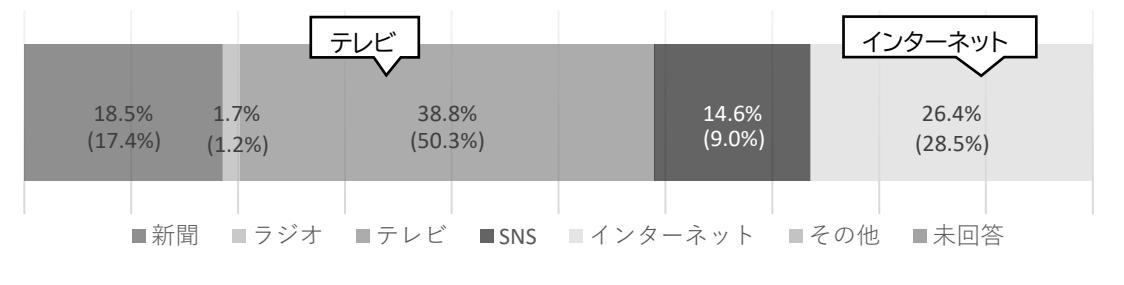
【1 年代・2 性別・3 主な情報源】

回答者については例年通り高齢者の回答率が高く若年層になるにつれて回答率は低くなっています。また、回答者の性別比率は、約6割弱が女性で約4割弱が男性でした。

主な情報源については、まだテレビの割合が多いものの昨年度データと比較するとSNSなどのスマート等を媒体とした情報源が増加してきています。



3 主な情報源

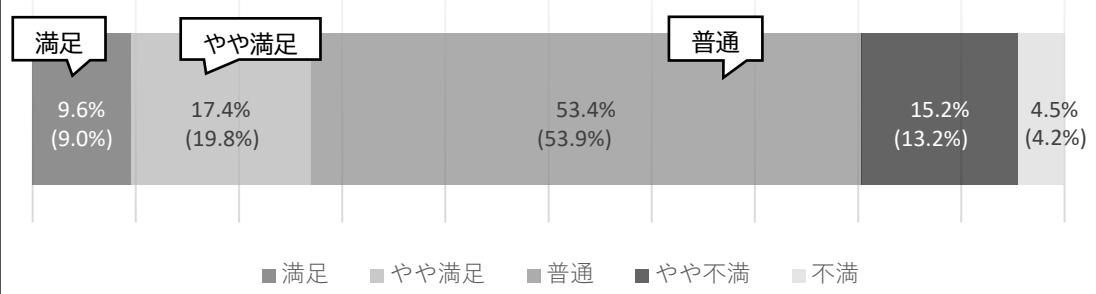


(2) 環境指標の評価項目

【4町並みの美しさについて】

自分が住んでいる町の美しさについては、約2割の市民が否定的な意見をもつていて約8割の市民は住んでいる町並みに肯定的な意見をもっていました。

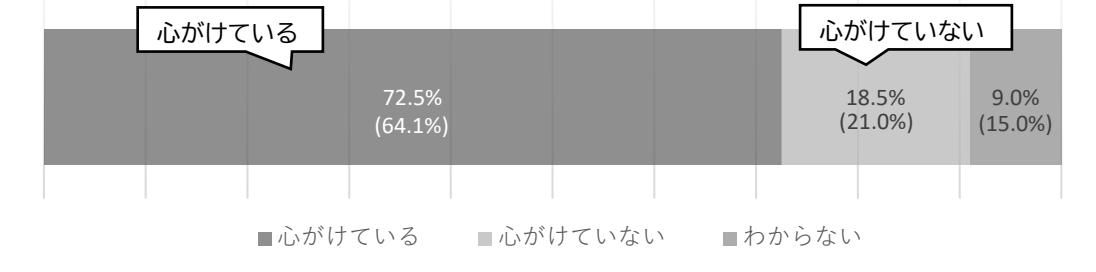
4 町並みの美しさについて



【5 庭の緑化について】

家の緑化を心掛ける市民の割合は7割を超え、年々増加し続けています。

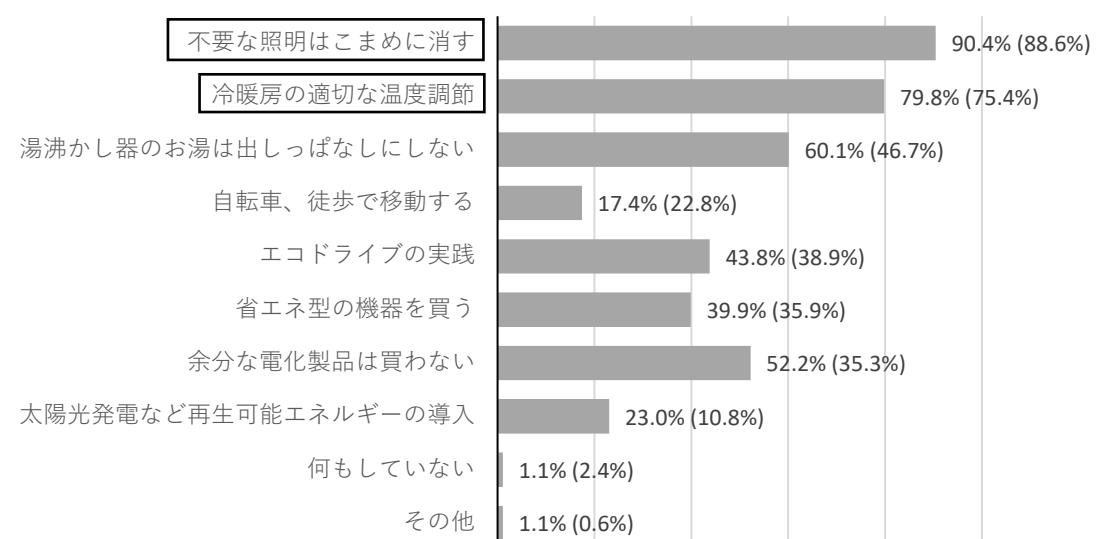
5 庭の緑化について



【6 省エネルギー行動について】

日常生活で実践している省エネルギー行動では、節電に関する取組は多く見られましたが、自転車や徒歩などのエコな移動手段をとる市民はまだ少ない結果となりました。

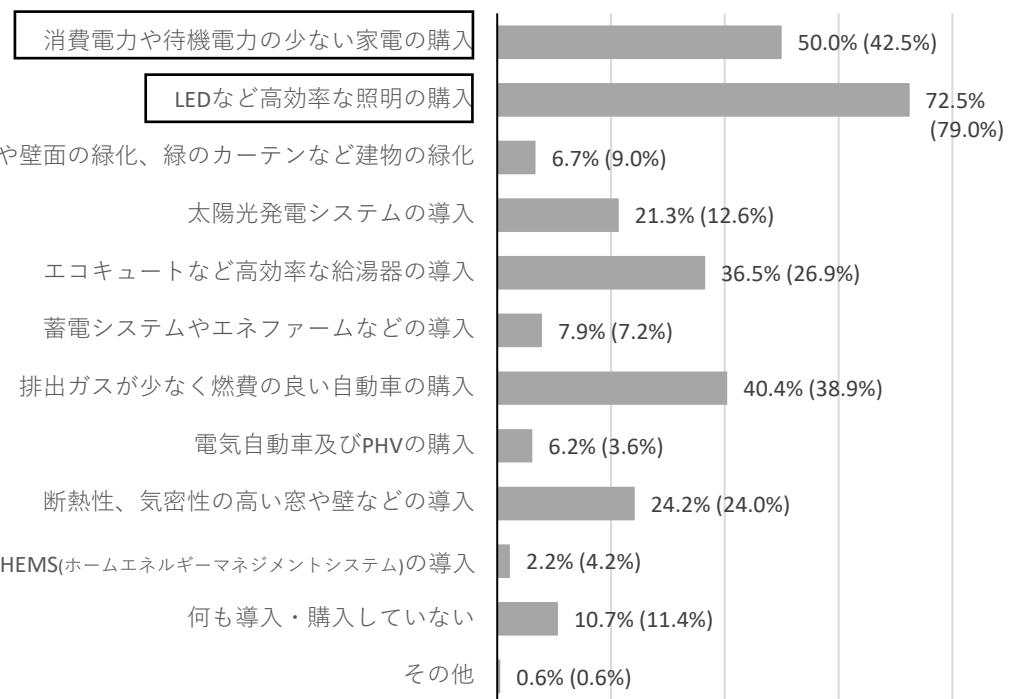
6 省エネルギー行動



【7 地球温暖化防止につながる設備の導入について】

半数以上の市民が、LED照明や省エネ家電の導入等の簡易的にできる省エネ対策を実践しています。また、太陽光発電システムやエコキュートなどハード面の設備の導入も徐々に増加しています。

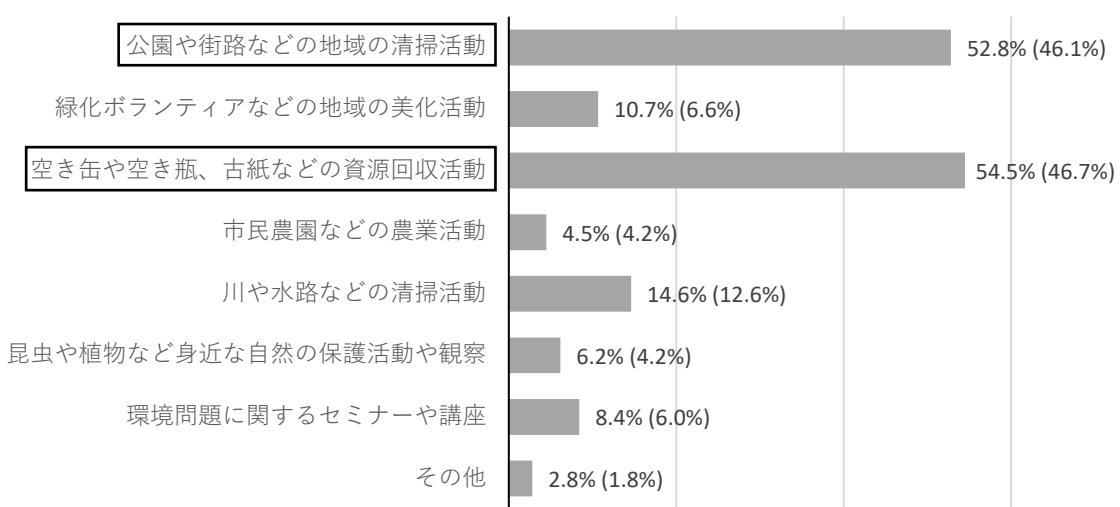
7 地球温暖化防止につながる設備の導入について



【8 環境に係わる活動について】

半数以上の市民が、環境に係わる活動に参加したことがあると回答しました。

8 環境に係わる活動について

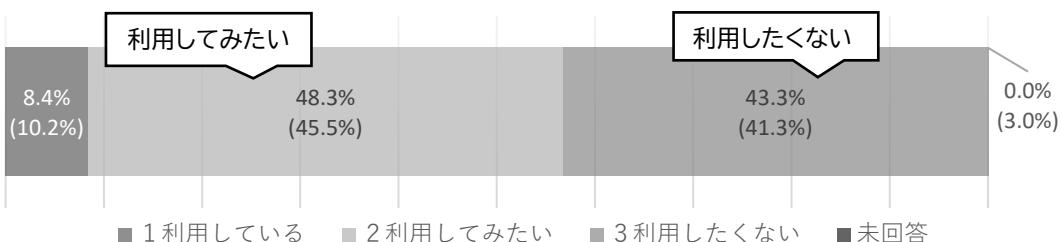


(3) 環境に関するテーマごとの設問

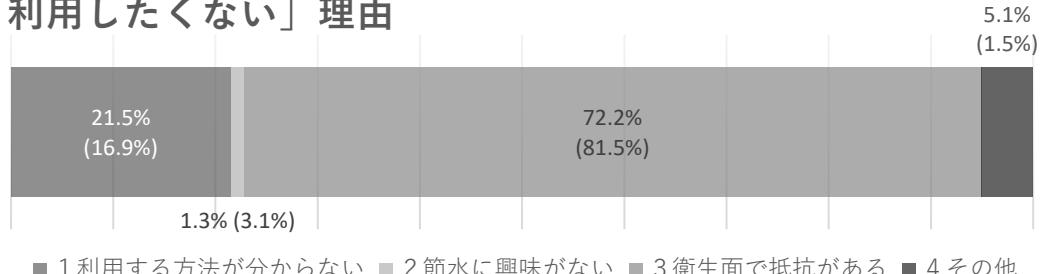
【水に関するここと】

半数以上の市民が節水のための雨水の利用に関心を持っているものの、衛生面で抵抗がある市民が多くいる結果となりました。また、約9割の市民が野菜くずや食用油を流さないなど水質保全に取り組んでいました。

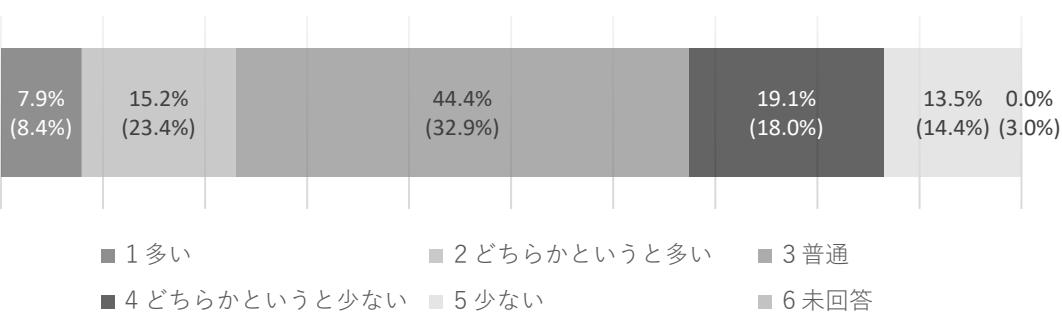
9 節水のために雨水を利用してみたいと思いますか



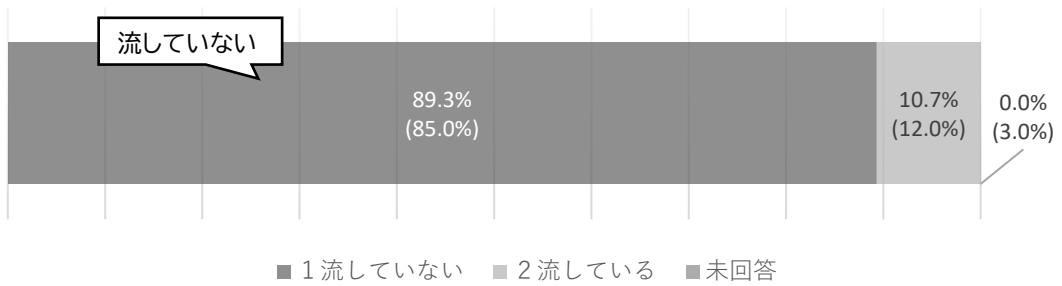
「利用したくない」理由



10 水辺や自然と触れ合う機会は多いと思いますか



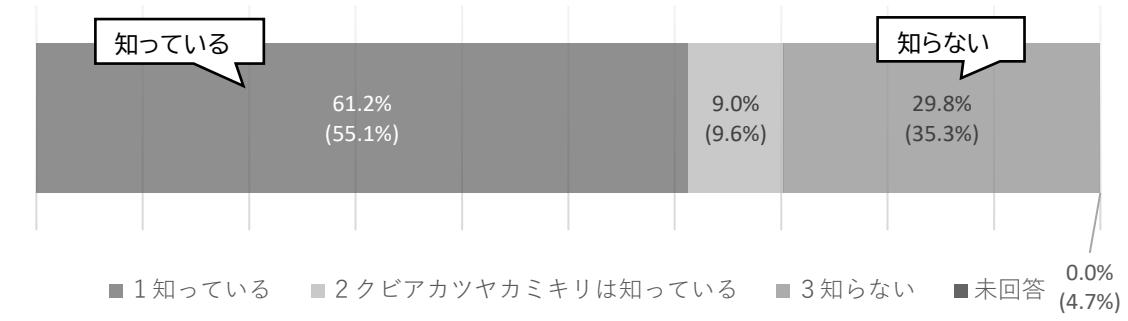
11 野菜くずや食用油を流さないようにしていますか



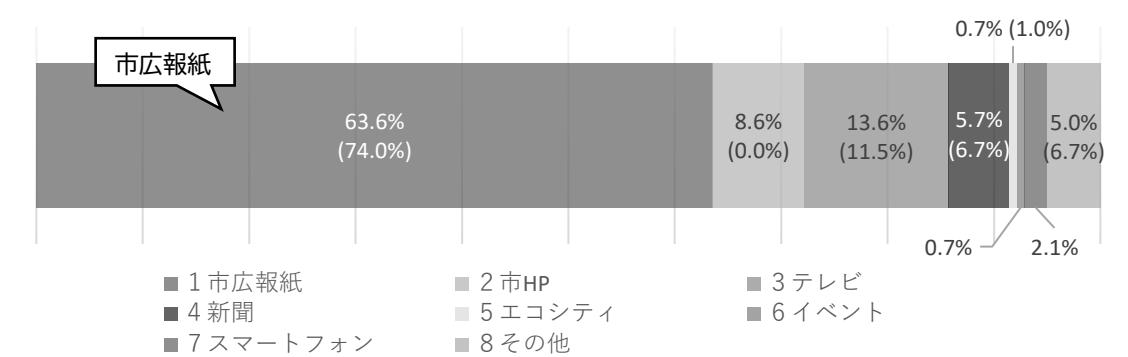
【緑に関すること】

「クビアカツヤカミキリ撲滅プロジェクト」の認知率は年々増加していて、多くの市民が市広報紙で情報を得ている結果となりました。

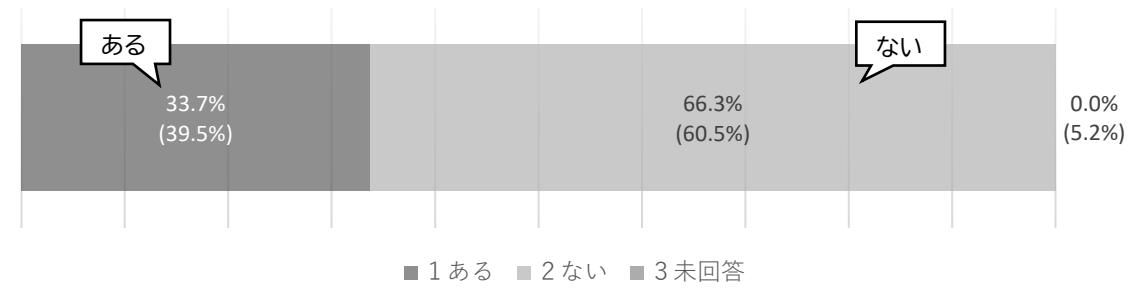
1 2 「クビアカツヤカミキリ撲滅プロジェクト」を知っていますか



「知っている」を選択したかたは、何を通じて知りましたか



1 3 緑のカーテンを育てたことはありますか

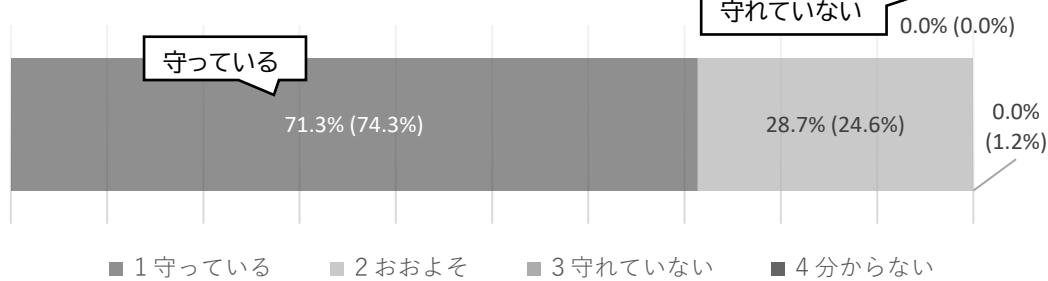


【ごみに関するここと】

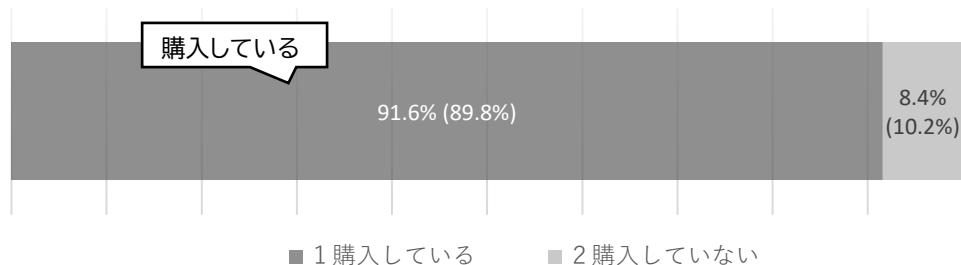
ほとんどの市民がごみの分別方法を守っていると回答しました。

さらには、ほとんどの市民が詰め替え製品やリサイクル製品を積極的に選択し、エコバックやマイボトルの利用をするなどごみの減量化に取り組んでいました。

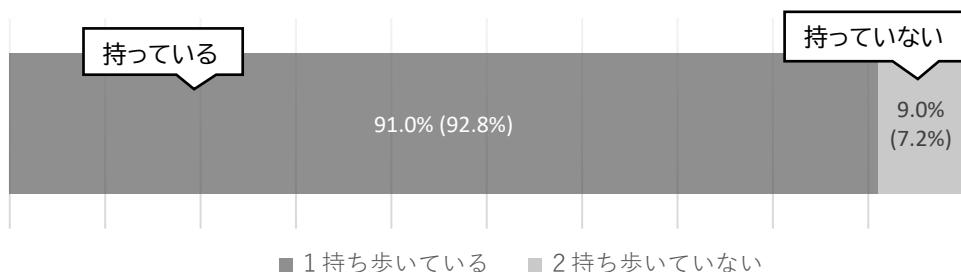
1 4 ごみの分別方法を守っていますか



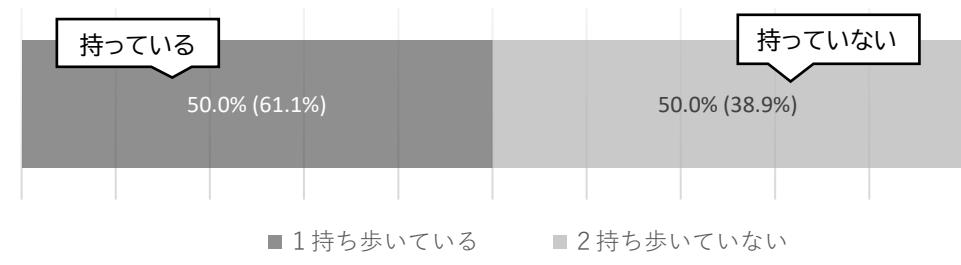
1 5 詰め替えやリサイクル製品を優先して購入していますか



1 6 買い物の際はマイバッグを持ち歩いていますか



1 7 出かける際はマイボトルを持ち歩いていますか

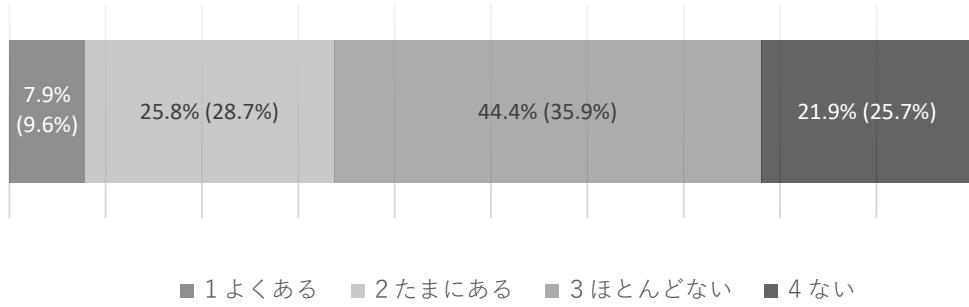


【生活に関するこ】

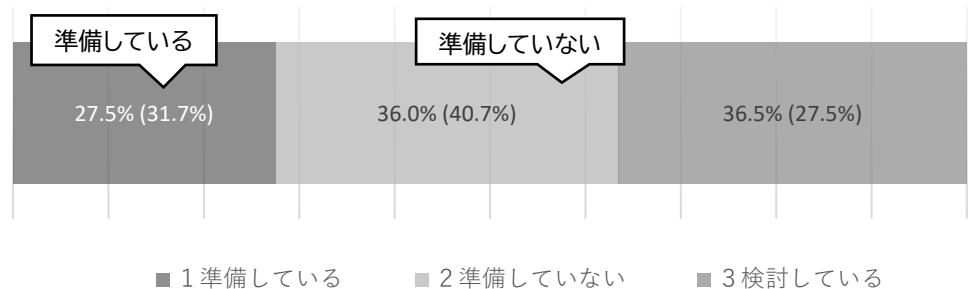
半数以上の市民が日常的に公共交通機関を利用していました。また、防災セットは約6割の人が準備もしくは検討をしているものの、3割程度の市民が準備しておらず防災意識醸成を図る必要があります。

また、約8割の市民がエコドライブを心掛けていると回答し、6割以上の市民が環境にやさしい電気自動車（EV等）の利用に前向きな回答をしました。

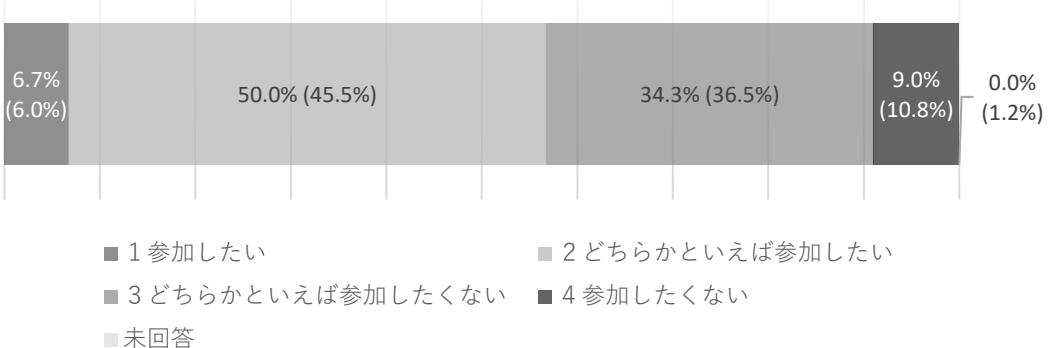
1 8 公共交通機関を利用する機会がありますか



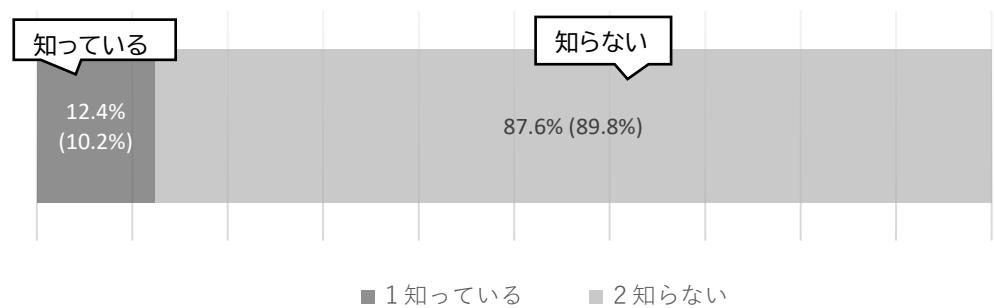
1 9 防災セット（避難用）を準備していますか



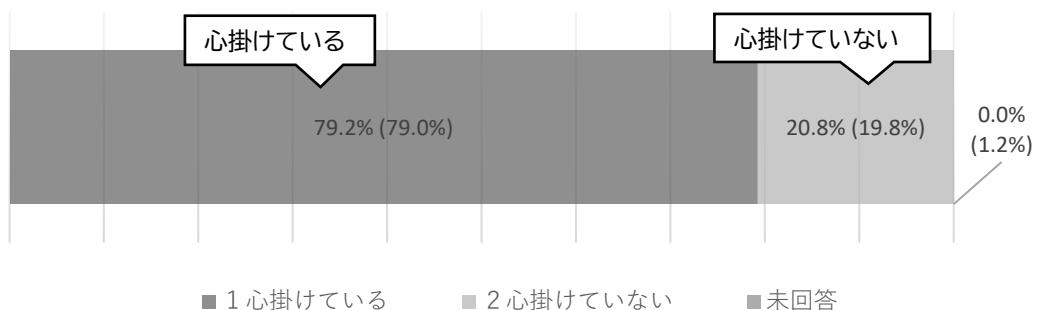
2 0 環境に関するイベントがあれば参加したいと思ひますか



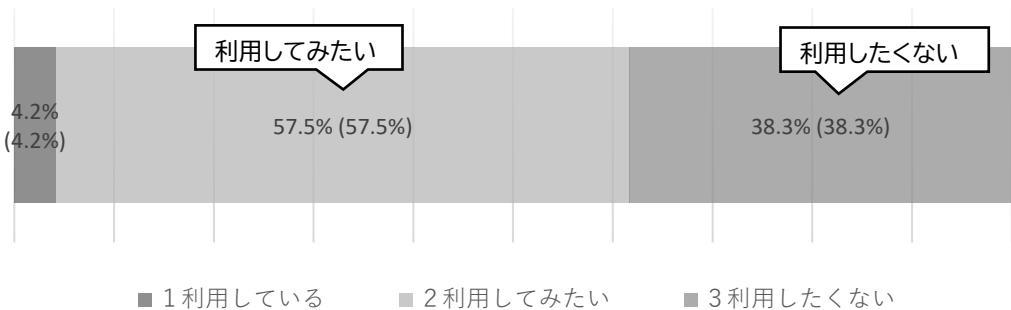
2 1 「たてばやし学校エコライフ活動」を知っていますか



2 2 エコドライブを心掛けていますか



2 3 電気自動車（EV等）を利用していますか

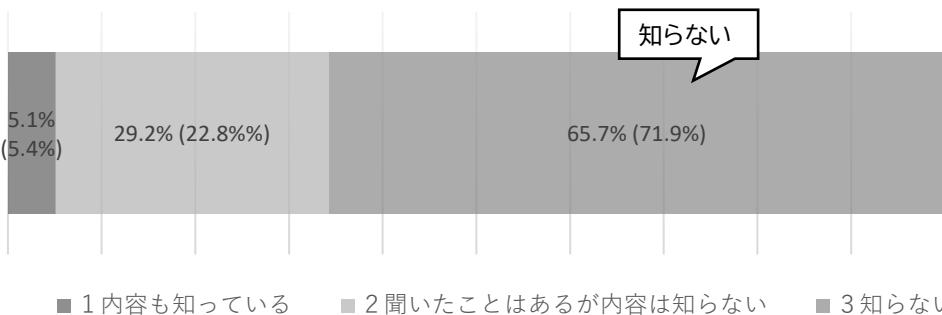


【9たてばやし5つのゼロ宣言について】

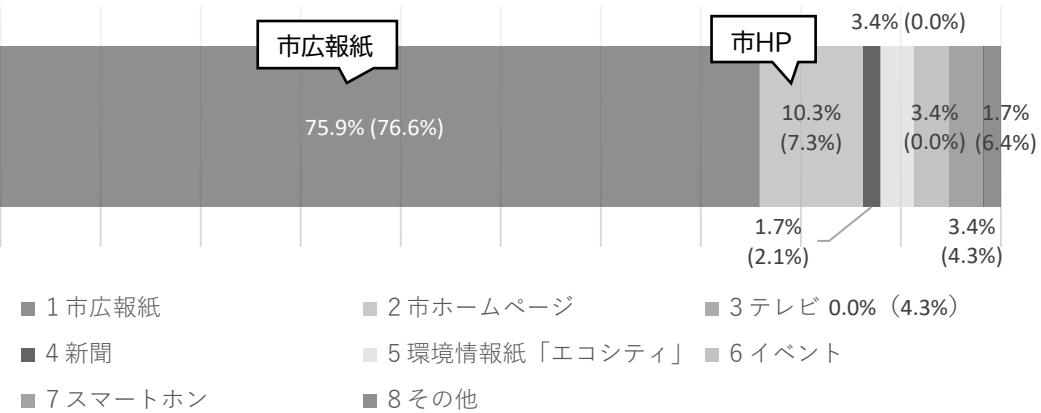
(4) たてばやし5つのゼロ宣言について

少しづつ認知度は拡大しているものの、半数以上の市民は宣言について何も知らないと回答しています。情報源の大半は市広報紙やHPでした。

24 「たてばやし5つのゼロ宣言」を知っていますか



「1」もしくは「2」を選んだかたは、何を通じて知りましたか



3. 事業者アンケート調査結果

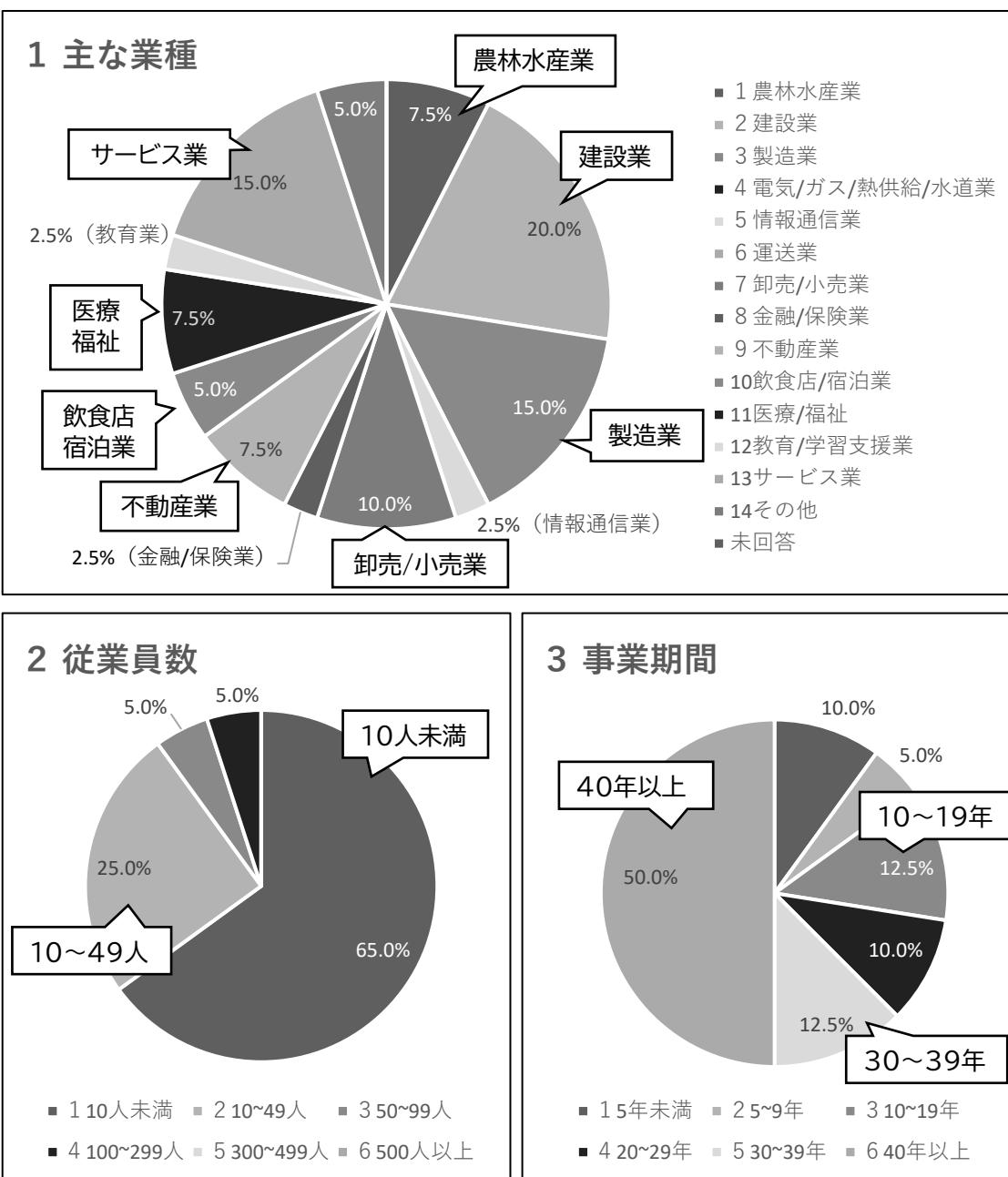
※小数点以下を四捨五入しているため、必ずしも合計が100%にはならない。

※()内は昨年度実績値

(1) 基本情報

【1 主な業種・2 従業員規模・3 市内における事業年数】

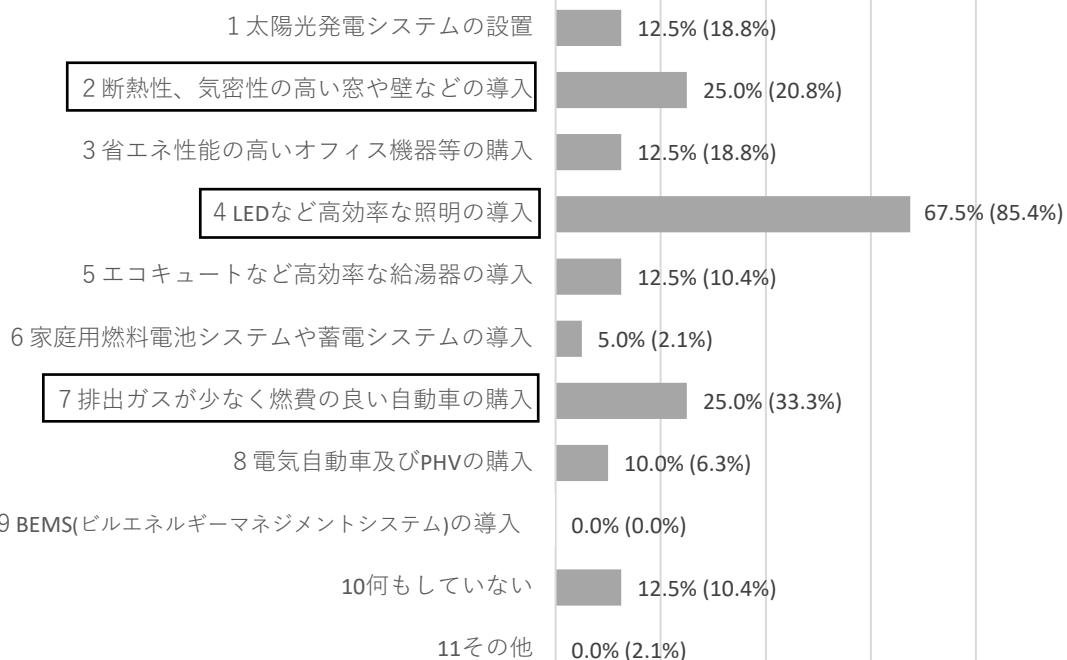
主な業種は上から建設業、製造業、サービス業、卸売/小売業となりました。また、市内での事業年数では、5割の事業者が40年以上と回答しました。



【4 地球温暖化防止につながる設備の導入について】

LED照明の導入が最も多く、次いで断熱性、気密性の高い窓や壁の導入、燃費の良い自動車の購入が多い回答となりました。

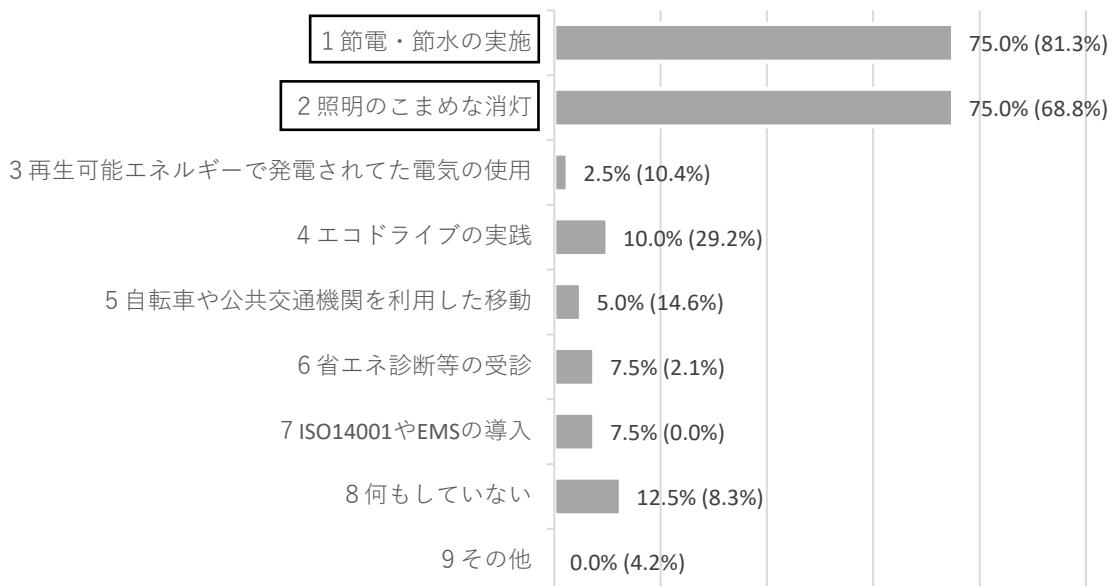
4 導入している地球温暖化防止につながる設備



【5 省エネルギー行動について】

多くの事業者が節電・節水に取り組んでいますが、エコドライブの実践や公共交通機関を利用した移動は、昨年度に比べ落ち込む結果となっています。

5 取り組んでいる省エネルギー行動

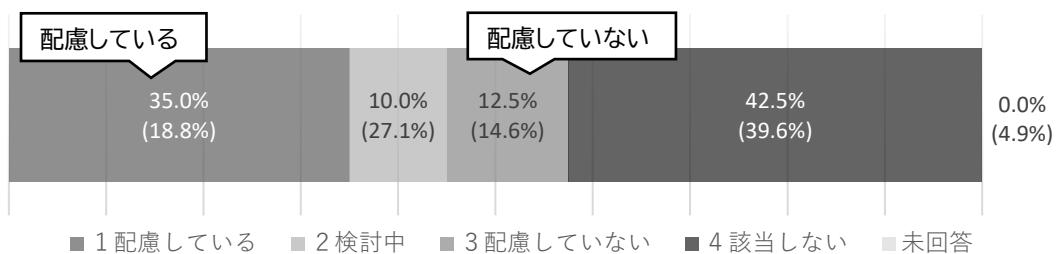


(3) 環境に関するテーマごとの設問

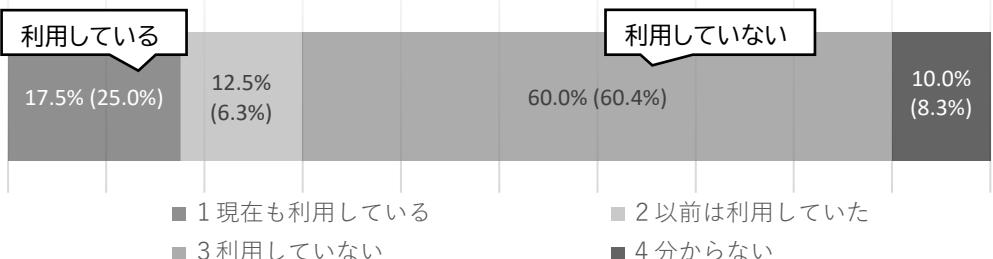
【水に関するここと】

水辺環境に配慮している事業者は増加傾向にありますが、地下水を利用しているもしくはしていた事業者は減少傾向にあります。

6 水辺環境に配慮した活動をしていますか



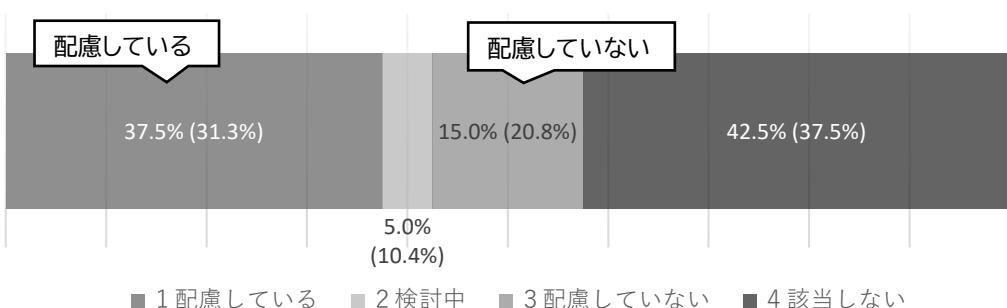
7 事業活動で地下水を利用したことはありますか



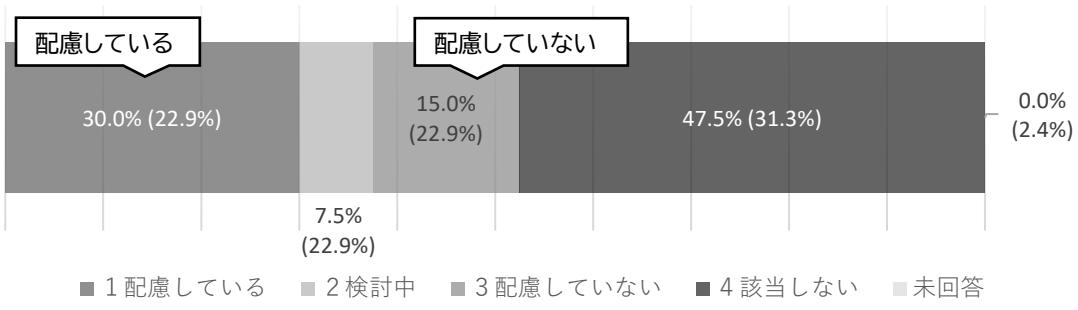
【緑に関するここと】

昨年と比較すると事業所周辺の緑地や生態系の保全に配慮していると回答する事業者が増えたものの、「該当しない」と当事者意識が低い業者も増加しています。

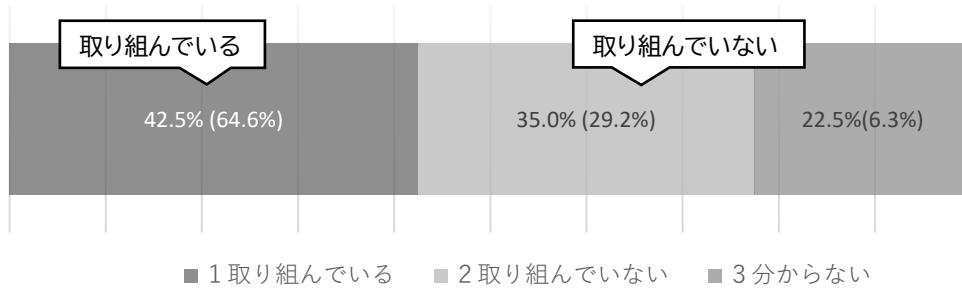
8 事業所周辺の緑地の保全に配慮した活動をしていますか



9 事業活動において、生態系に配慮していますか



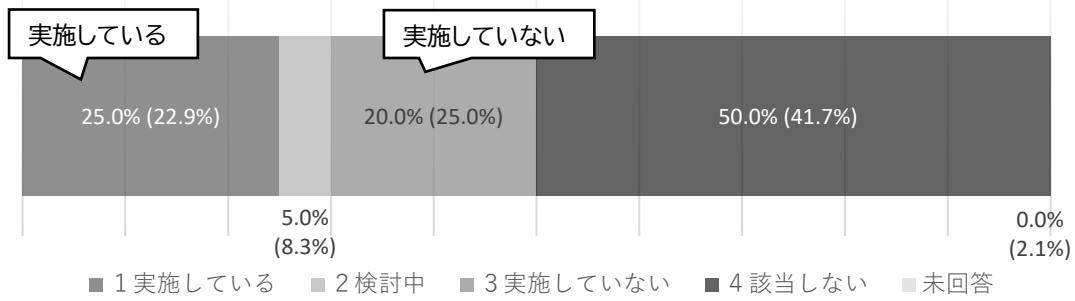
10 事業敷地内の緑化に取り組んでいますか



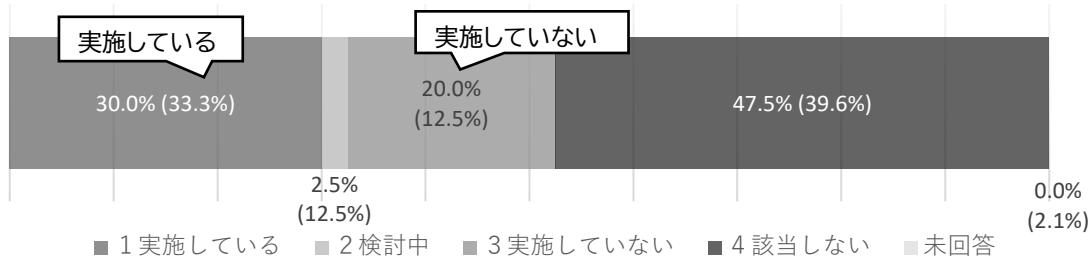
【公害に関するここと】

防音対策を実施している事業者は2割強で、排水対策を実施している事業者は3割となりました。

11 事業所もしくは工場の防音対策を実施していますか



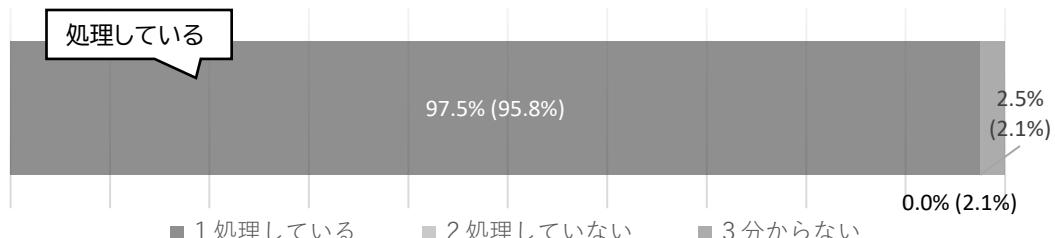
12 水のきれいさを守るために排水対策を実施していますか



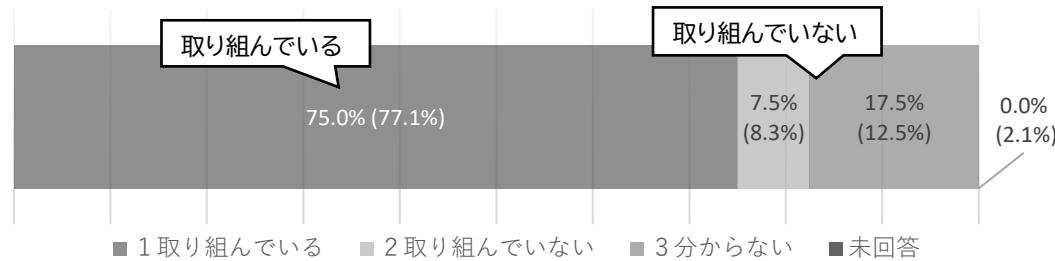
【ごみに関すること】

ごみの減量化に取り組んでいる事業者は約8割となりました。

1 3 ごみは分別し、適正に処理をしていますか



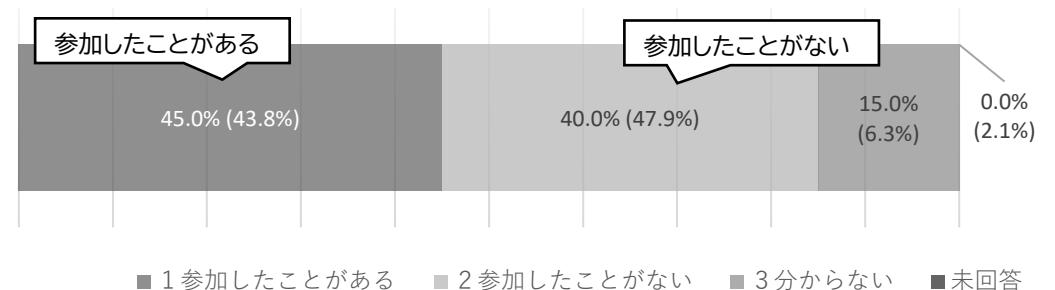
1 4 ごみの減量化に取り組んでいますか



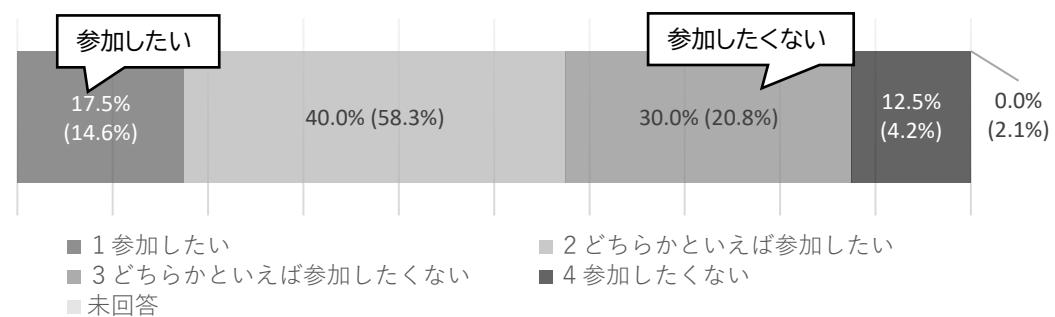
【学びに関するここと】

地域のイベントに参加したことがある事業者は4割を超え、社員教育に環境に関する研修を取り入れている企業も増加傾向にあります。

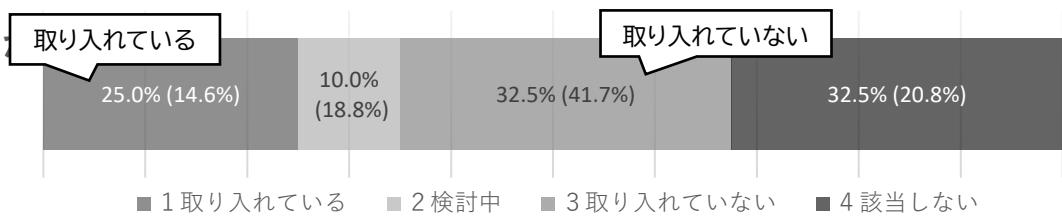
1 5 地域のイベントに参加したことはありますか



1 6 環境イベントや環境保全活動等に参加したいと思いませんか



17 社員教育の中に、環境についての研修を取り入れています



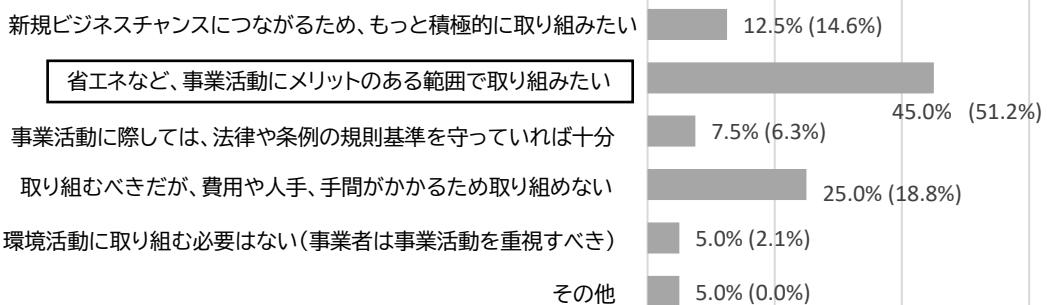
18 災害時の避難用に備蓄品の補充や体制は整っていますか



(4) 環境活動に対する考え方

半数以上の事業者が事業活動にメリットがある範囲で取り組みたいと回答しました。

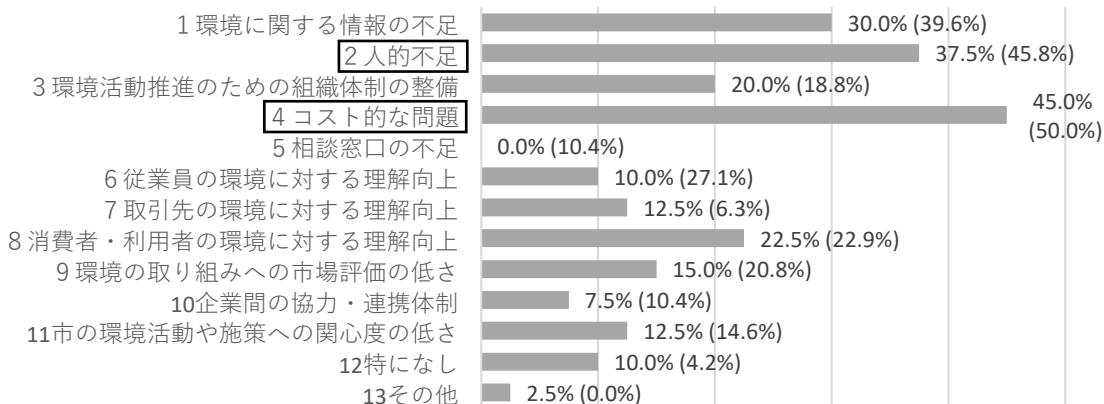
19 環境活動に対する考え方



(5) 環境活動を進めるうえでの課題について

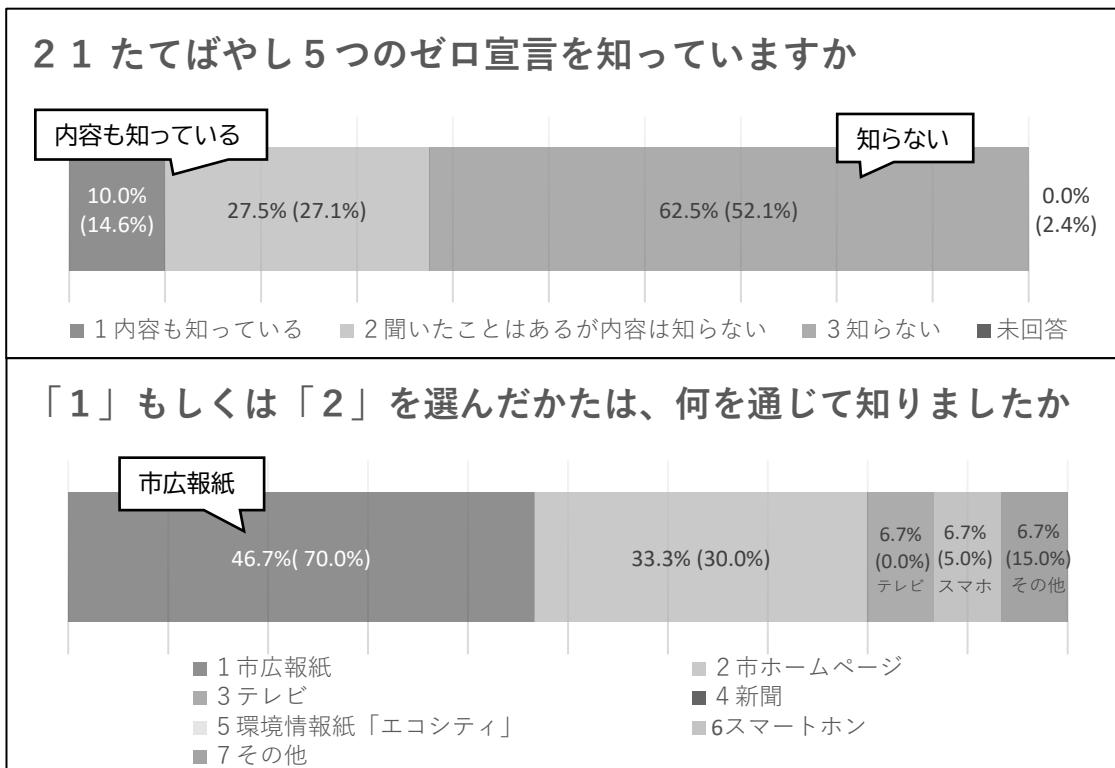
多くの事業者がコスト面及び人的不足と回答しました。

20 環境活動を進めるうえでの課題について



(6) たてばやし5つのゼロ宣言について

知っていると回答した事業者は約4割となりました。



4. 現状分析・評価

アンケート調査に関して、市民・事業者の環境活動への取組状況や見えてきた課題から、環境行政の推進に必要な事項について分析・評価を行いました。

(1) 市民の取組を進めるための分析・評価

多くの市民が節電・節水など簡単な省エネルギー行動に取り組んでいますが、省エネ設備の導入については、費用の高さが障壁となり導入率が低い傾向にあります。補助金などの初期費用を軽減する政策の検討や、設備導入の長期的な経済的メリットを市民に周知啓発することで、導入を促進する必要があります。

また、環境活動や講座に関して市民の関心が薄いため、興味を持ちやすいテーマや実践的なワークショップを実施し、楽しく学べる機会の提供をする必要があります。

(2) 事業者の取組を進めるための分析・評価

コストや効率を重視し、省エネ設備や次世代自動車の導入、公共交通機関の利用に消極的な事業者が多く見られます。補助の検討や経済的メリットの成功事例を共有することで事業者の意識醸成を図る必要があります。

また、緑地や生態系などの保全に関心の低い事業者が多くみられるため、環境保全が企業の社会的責任の一環であり、企業イメージの向上につながることを啓発する必要があります。

(3) たてばやし5つのゼロ宣言を浸透させるための分析・評価

市民・事業者の認知度は多少増加しているものの依然として低く、宣言の内容や意義が十分に伝わっていない可能性があります。市民や事業者が参加するための具体的な手段やメリットが不明確であるため、情報提供の強化、具体的手段の周知、宣言の意義の啓発が必要です。また、教育機関と連携して環境教育を取り入れ、次世代への啓発を進める必要があります。